

詩23篇

全体の構造

A. 私に対する主のかかわりの結論

「まことに、私のいのちの日の限り、
いつくしみと恵みとが私を追ってくる。」

B. 主に対する私のかかわりの結論

「私は、いつまでも、主の家に住まい
ましょう。」

「いつくしみと恵みとが私を追ってくる」
その根拠は・・・

(1) 主が私の羊飼いであること

The Lord is My Shepherd.

(2) 主が私をもてなす主人であること

The Lord is My Host.

「主が私の羊飼いである」とは・・・

- (1) 緑の牧場に伏させる (安息)
- (2) 憩いの水のほとりに伴う (静謐)
- (3) たましいを生き返らせる (回復)
- (4) 義の道に導かれる (導き)
- (5) ともにおられる (臨在)
- (6) 慰めを与える (慰め)

「主が私をもてなす主人である」とは・・・

- (1) 敵前で食事を整えてくださる
- (2) 頭に油を注いで歓待してくださる

主人の手厚いもてなしは、私に大きな喜びをもたらした。それを「私の杯はあふれている」と表現している。

「私」が、主語となっている表現

- (1) 「私は乏しいことがない」
 - (2) 「私は災いを恐れません」
 - (3) 「私の杯はあふれています」
 - (4) 「私は、主の家に住まいましょう」
- ※Doingの告白は、(4)の「住まいましょう」のみで、あとの(1)(2)(3)は、すべてBeingの告白であることに注目しよう。